

13 施設設備

進捗状況報告

【13.0.1 施設・設備等の整備】

授業教室について、2006年度の神学部校舎改修において教室の増加および既存教室の拡大が実現した。

- ・新規教室 42名収容1室、24名収容1室、12名収容1室（いずれも机・椅子は可動式）
- ・既存教室 47名収容1室を、60名収容1室へ改修（いずれも机・椅子は可動式）

本改修工事に伴い、教室数5室（計166名収容）となった（チャペルを除く）。また、既存の可動式AV機器に加え、可動式スクリーン（100インチ）1台、TVモニターなどが配備された。

研究用端末室について、全学的な方針のもとで、教材開発のための施設・設備は大学のマルチメディア教室などに移行していく。また、教員の個人研究室でのPC利用環境も充実してきている。よって神学部校舎における研究用端末室のあり方を再検討し、その一部に学部図書室拡充のための新たな書庫を設置した。

教育への支援体制について、教務補佐・教学補佐による授業資料の準備、授業のための視聴覚機材の設置・操作など最低限の水準を確保し得ているが、いわゆるティーチング・アシスタントの役割につき、具体的な授業科目や内容について将来構想委員会・カリキュラム研究委員会で検討を開始している。

【13.0.2 先端的な設備・装置】

【13.0.6 キャンパス・アメニティ等】

【13.0.7 利用上の配慮】

学部生控室および大学院共同研究室について、神学部校舎改修後の状況や2007年度夏期に予定されている教育研究機器リプレースなどの状況を考慮しつつ、学部学生主任・大学院教務学生主任と学生が共同でそのあり方を考えていく体制を整備する。

障がい学生のためのトイレ設置について、2006年度の校舎改修では実現していないが、対象学生の入学があった時点で適切かつ迅速に対応できるよう、体制を整えた。

【13.0.8 組織・管理体制】

現在のところ、施設・設備の管理体制は問題ないが、学部学生控室や大学院共同研究室などの利用環境を整備していく上で新たな課題が出れば適切に対応できる体制を整える。

学内第三者評価

教室や図書室の整備、また、身体障がい者の対策については改善が進んでいる。